

DOCUMENT PROCESSOR

Publication number: JP6149800

Publication date: 1994-05-31

Inventor: TAMEMIZU KOZUE

Applicant: BROTHER IND LTD

Classification:

- international: G06F17/28; G06F17/21; G06F17/27; G10H1/00;
G06F17/28; G06F17/21; G06F17/27; G10H1/00; (IPC1-
7): G06F15/20; G06F15/38; G10H1/00

- European:

Application number: JP19920305655 19921116

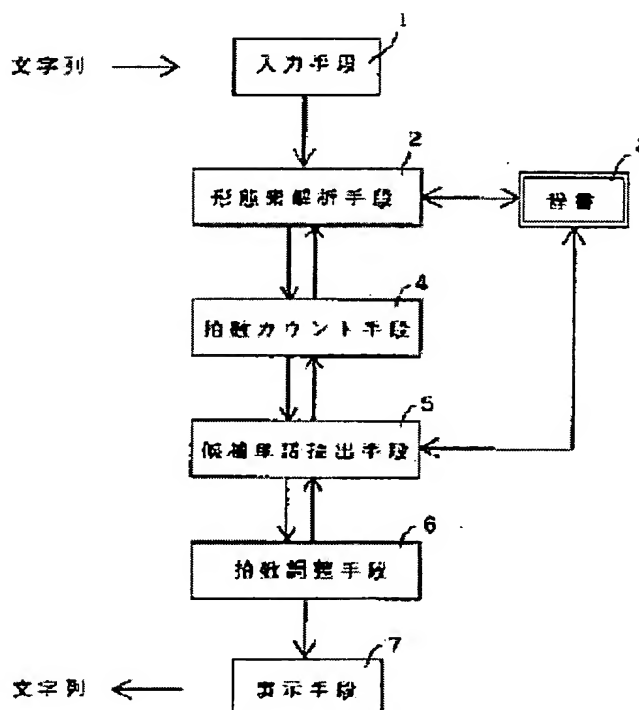
Priority number(s): JP19920305655 19921116

Report a data error here

Abstract of JP6149800

PURPOSE: To obtain the document processor for easy-to-sing and easy-to prepare parody song text preparation in consideration of the matchability between an original song and a beat number by performing a morpheme analysis of a character string which is the text of the original song and displaying a candidate which is adjusted in beat number.

CONSTITUTION: When the text of the original song is inputted through an input means 1, a morpheme analytic means 2 analyzes the character string and beats are counted on the basis of the analytic result. At the same time, a candidate word extracting means 5 extracts words having similar meaning from a dictionary in form matching the context with part-of-speech information according to the analytic result and beats are similarly counted. A beat number adjusting means 6 compares the beat numbers of the original song and extracted words, and then adjusts and displays the candidate. For example, a jammed road in a city is already generated as a parody song for a narrow mountain path at sunset as the original song. Here, the pronunciation (mountain path), part-of-speech information (noun), and meaning information (path) are saved for counting the beat number in the morpheme analytic processing for the mountain path and then a street and a highway are displayed by a candidate word extracting means 5 and a beat number adjusting means 6.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-149800

(43) 公開日 平成6年(1994)5月31日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 15/20	5 5 0 L	9288-5L		
15/38	Z	7323-5L		
G 1 0 H 1/00	Z	8622-5H		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平4-305655

(22) 出願日 平成4年(1992)11月16日

(71) 出願人 000005267

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

(72) 発明者 為水 こずえ

名古屋市瑞穂区苗代町15番1号ブラザー工業株式会社内

(54) 【発明の名称】 文書処理装置

(57) 【要約】

【目的】 歌詞を入力して形態素解析し、品詞情報、意味情報を抽出条件とし、さらに拍数を調整することにより、元歌の拍数に合わせた替え歌を容易に作成できる文書処理装置を提供すること。

【構成】 歌詞を入力すると、辞書を使って形態素解析し、各単語の読み、品詞情報、意味情報を得る。前述の読みから拍数をカウントし、替え歌用の言葉を選ぶための条件とする。意味情報から特定の意味情報を持ち、拍数が適当である単語を抽出し替え歌候補として表示する。拍数が足りない語をどうしても入れたい場合には、品詞情報から文脈に適合してかつ拍数を埋めることのできる単語を抽出・追加して候補とする。

1. えっさえっさえさほいさっさ	お嬢の	かご屋だ	ほいさっさ
2. えっさえっさえさほいさっさ	おさるの	かごやだ	ほいさっさ
3. えっさえっさえさほいさっさ	せいひん	うりこみ	ほいさっさ
4. えっさえっさえさほいさっさ	製品	売り込み	ほいさっさ

1. 日暮れの	山道	細い道	小田原橋灯	おらさげて
2. ひぐれの	やまみち	ほそみち	おだわらちょうちん	おらさげて
3. 都会の		混んだ道	アタッシュケース	おらさげて
4. とかいの		こんだみち		おらさげて

往來 (おうらい)
街道 (かいどう)

そ
は
も

1. それ	やっこ	どっこい	ほいさっさ	ほいほいほいほいさっさ
2. それ	やっこ	どっこい	ほいさっさ	ほいほいほいほいさっさ
3. それ	やっこ	どっこい	ほいさっさ	ほいほいほいほいさっさ
4. それ	やっこ	どっこい	ほいさっさ	ほいほいほいほいさっさ

1. 元歌表記
2. 元歌読み
3. 替え歌表記
4. 替え歌読み

は候補文字列

【特許請求の範囲】

【請求項1】 歌詞などの文字列を入力する入力手段と、複数の単語がそれぞれの表記、読み、品詞情報、意味情報とともに登録されている辞書と、この辞書に登録されている内容を用いて、上記入力手段によって入力された上記文字列を解析する形態素解析手段と、上記文字列等を表示する表示手段とを備えた文書処理装置において、

上記形態素解析手段によって解析された上記文字列の中から拍数をカウントする拍数カウント手段と、

上記形態素解析手段によって解析された上記文字列の中から、品詞情報および意味情報を抽出条件とし、辞書内の単語を候補として抽出する候補単語抽出手段と、前記入力手段により入力された元歌の歌詞と前記候補単語抽出手段から抽出された候補単語の拍数を比較し、調整する拍数調整手段とを備えたことを特徴とする文書処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は元歌の歌詞である文字列を、形態素解析し、拍数を抽出して替え歌を作成する文書処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、文書処理装置は、複数の単語がそれぞれの品詞情報、意味情報とともに登録されている辞書を持ち、この内容を用いてある単語の意味情報から同意味の単語を抽出し、品詞情報から文脈に適する形にして表示するものがあった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述したような従来の文書処理装置では、替え歌を作成するために必要な元歌との拍数の適合性を考慮しておらず、抽出された単語では歌にくい場合があるという問題点があった。

【0004】本発明は、上述した問題点を解決するためになされたものであり、その目的は、元歌の歌詞である文字列を形態素解析し、さらに拍数を調整した候補を表示することにより元歌との拍数の適合性を考慮した、歌いやすく、作りやすい替え歌作成用の文書処理装置を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するために本発明の文書処理装置は、歌詞などの文字列を入力する入力手段1と、複数の単語がそれぞれの表記、読み、品詞情報、意味情報とともに登録されている辞書3と、この辞書3に登録されている内容を用いて、上記入力手段1によって入力された上記文字列を解析する形態素解析手段2と、上記文字列等を表示する表示手段7とを備えた文書処理装置において、上記形態素解析手段2によって解析された上記文字列の中から拍数をカウントする

拍数カウント手段4と、上記形態素解析手段2によって解析された上記文字列の中から、品詞情報および意味情報を抽出条件とし、辞書内の単語を候補として抽出する候補単語抽出手段5と、前記入力装置から入力された元歌の歌詞と前記候補単語抽出手段5から抽出された候補単語の拍数を比較し、調整する拍数調整手段6とを備えている。

【0006】

【作用】上記構成を有する本発明の文書処理装置において、入力手段1により元歌の歌詞が入力されると、形態素解析手段2により該文字列を解析し、この解析結果をもとにして拍数をカウントする。同時に、解析結果から候補単語抽出手段5により意味情報の類似する語を品詞情報により文脈に適した形にして辞書から抽出し、同様に拍数をカウントし、拍数調整手段6により元歌の拍数と抽出単語の拍数を比較して元歌に合うように調整して候補を表示する。従って、言葉のつながりとともに拍数も適合する歌いやすい替え歌が簡単にできる文書処理装置を提供する。

【0007】

【実施例】以下、本発明を具体化した一実施例を図面を参照して説明する。

【0008】図2は本実施例の文書処理装置の構成を示すブロック図である。文書処理装置は、入力装置10と、CRTなどの表示装置20と、作成した替え歌の保存などに使用する補助記憶装置40と、制御装置30とから構成されている。制御装置30は、全体的プログラムを制御するCPU31と、ここでの制御処理プログラムが記憶されるROM32と、ワーキング用のRAM33と、入力装置10・表示装置20・補助記憶装置40とCPU31とのデータ交換のための入出力インターフェース(I/O)34と、バスライン35とを備えている。入力装置10、表示装置20、補助記憶装置40は(I/O)34で制御装置30と接続している。また、制御装置30内の、ROM32と、RAM33と、(I/O)34とはバスライン35により、全体的プログラムを制御するCPU31と接続している。ROM32中には辞書32aが記憶されている。RAM33中には解析結果保存領域33aが存在する。

【0009】図3は辞書32aの構成例である。入力文字列と比較するための〈表記〉、拍数カウント処理のために使用する〈読み〉、文脈に適する形にするために使用する〈品詞情報〉、意味に着目した単語を抽出するために使用する〈意味情報〉から構成される。〈品詞情報〉中の〈活〉は活用語であることを示す。

【0010】図4のフローチャートと図3を参照して、本実施例の形態素解析処理を説明する。文字列「山道」を入力して(S10)、形態素解析処理をする(S20)。辞書32aを検索し(S21)、表記とマッチングをする(S22)。辞書32a中に入力文字列と同じ

「山道」が存在すると(S23; Y)、当該レコードの読み「やまみち」品詞「名詞」意味「道」を解析結果保存領域33aに保存する(S24)。辞書32a中に入力文字列と同じ表記語が存在しない場合は(S23; N)処理をやりなおす。

【0011】次に拍数カウント処理を図5で説明する。拍数のカウントは、まず形態素解析処理によってS24で保存済みの読み文字列を入力する(S400)。たとえば読み文字列「あたしゅけーす」を入力する。カウント数N=0とし(S401)、先頭にポインタをセットする(S402)。「あ」は大きい文字であるので(S403; Y)、1文字=1拍とし(S406)、カウント数N=N+1すなわち0+1で「1」とする(S407)。ポインタを1文字後方にずらして(S410)、文字列があるかどうかをチェックし(S411)、同様に読みの1文字ずつのチェックをする。次の文字「た」は前回と同じ処理となり、N=2を得る。続く「っ」の場合は、大きい文字でなく(S403; N)、「ー(長音)」でもないが(S404; N)、日本語では促音「っ」を1拍と数えるので(S405; Y)1文字=1拍で(S406)、N=3となる(S407)。以下、処理を進めていく。

【0012】「ゅ」の場合は、大きい文字でなく(S403; N)、「ー(長音)」でもなく(S404; N)、「っ(促音)」でもない(S405; N)。よって1文字=0拍となる(S408)。「あ」「た」「っ」「し」をそれぞれ1拍ずつ数えたので、「ゅ」を0拍と数えると、ここまででN=4となる。処理を続けていき、文字がなくなると(S411; N)拍数カウント処理を完了する。このようにして「あたしゅけーす」は7拍であることがカウントできる。

【0013】実際に替え歌を作成する場合を説明する。図8において、元歌「日暮れの山道細い道」に対して替え歌が「都会の～混んだ道」が作成済みであったとする。元歌の「山道」に対応する「～」の候補抽出処理を説明する。まず、「山道」を入力すると、既に形態素解析処理で説明したように、読み「やまみち」品詞「名詞」意味「道」が解析結果保存領域33aに保存されているので(図4; S24)、拍数カウント処理で「山道」拍数は読み「やまみち」から4拍であることがわか

る(図5)。
【0014】図6を参照して、候補単語抽出処理を説明する。「山道」の意味情報が「道」であるので(図3)、「道」の意味情報を持つ単語を検索する(S50)。まず、意味を「道」と指定すると(S51)、辞書を検索する(S52)。該当する候補「高速道路(こうそくどうろ)」「自動車道(じどうしゃどう)」「裏街道(うらかいどう)」「往来(おうらい)」「街道(かいどう)」「小道(こみち)」を抽出する(S53)。文脈にあった候補にするため、品詞のチェックを

し(S54)、活用がある場合には(S55; Y)、該当する活用形にする(S56)。活用が無い場合は(S55; N)次の処理に進む。抽出された単語の拍数を前述の拍数カウント処理と同様にカウントし(S57)、候補単語の拍数nを得る(S58)。入力文字列「山道」の拍数Nは4であるので、4とnを比較しn=4ならば(S59; Y)、候補として表示する(S70)。n=4でないならば(S59; N)拍数調整処理に進む(S60)。ここでn=4である候補「往来」「街道」を候補単語として表示する。

【0015】図7で拍数調整処理を説明する。入力語が「小田原提灯(おだわらちようちん)」である場合、拍数N=8である。ここに、替え歌で「アタッシュケース」という拍数n=7の語を入れる場合を説明する。N-n>0(8-7=1>0)であるので(S61; Y)、足りない拍を補足するため単語追加処理をする場合は(S62; Y)、(N-n)拍語すなわち1拍語で、「アタッシュケース」と「ぶらさげて」の間に接続可能である品詞を抽出する。抽出された助詞「を」「は」「も」を候補として表示する(S70)。ユーザーはこのなかから、たとえば「を」を選択すると、元歌「小田原提灯ぶらさげて」に対して替え歌「アタッシュケースをぶらさげて」ができる。こうして、意味と拍数の適合した替え歌が作成できる。拍数調整手段を実行しないとき(S60; N)、N-n<0すなわち替え歌の方が元歌よりも拍数が多いとき(S61; N)および単語追加処理をしない時は(S62; N)、そのまま処理を終了する。

【0016】なお、本実施例では文字列だけを列挙して説明したが、楽譜も同時に表示して、言葉と音があわせやすいようにしてもよい。また、歌詞中の人の名前を替える場合には、品詞「人名」の部分自動的に選択して名前が入力できるようにし、「さちこさん(5拍)」を「さっちゃん(4拍)」にするなど、拍数の調整ができるようにしてもよい。

【0017】

【発明の効果】以上説明したことから明かなように、本発明の文書処理装置は、歌詞を入力すると辞書を使って形態素解析し、品詞情報、意味情報および拍数調整処理により替え歌の候補とする文字列を抽出するので、言葉のつながりとともに拍数も適合する候補を生成する。従って、歌いやすい替え歌が簡単にできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のクレーム対応図である。

【図2】本発明の文書処理装置の構成を示すブロック図である。

【図3】その辞書構成例を示す図である。

【図4】本実施例における形態素解析処理手順を示すフローチャートである。

【図5】本実施例における拍数カウント処理手順を示す

フローチャートである。

【図6】本実施例の候補単語抽出処理手順を示すフローチャートである。

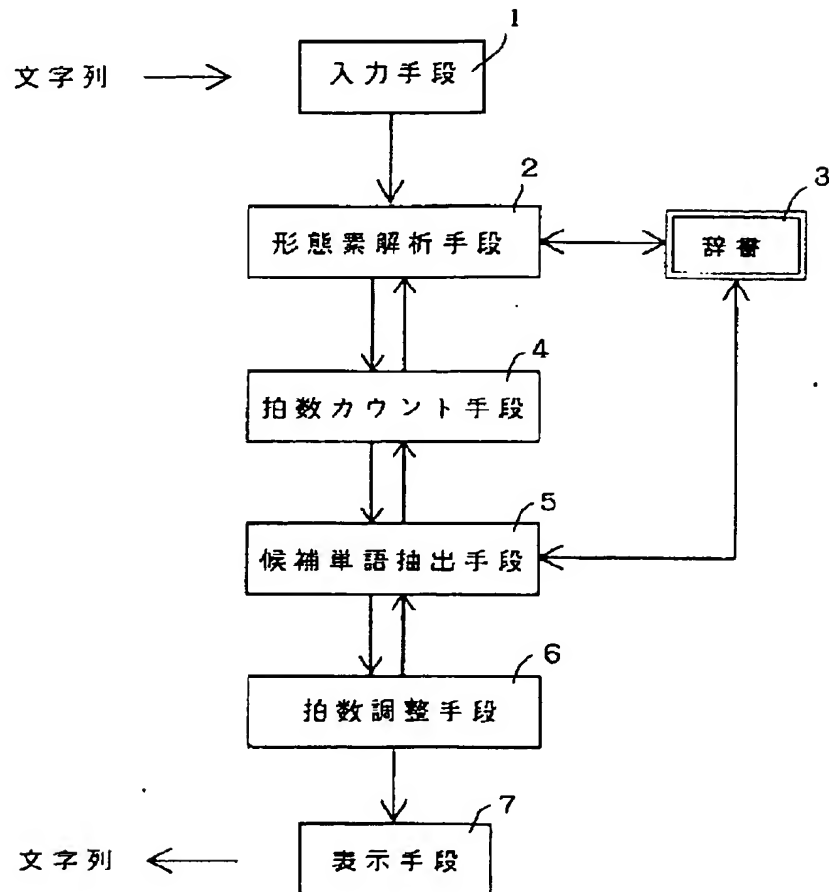
【図7】本実施例の拍数調整処理手順を示すフローチャートである。

【図8】替え歌作成場面を示す図である。

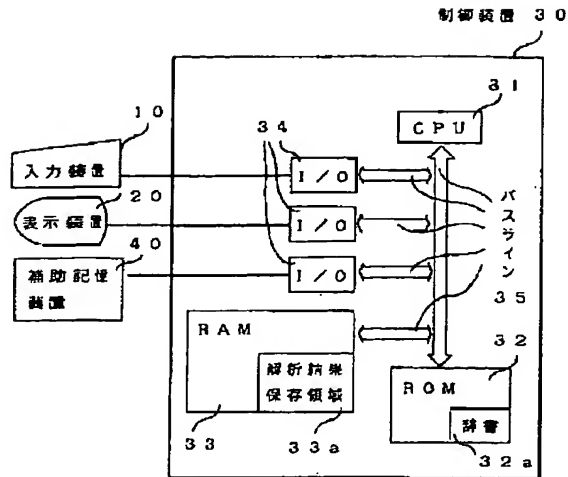
【符号の説明】

- 1 入力手段
- 2 形態素解析手段
- 3 辞書
- 4 拍数カウント手段
- 5 候補単語抽出手段
- 6 拍数調整手段
- 7 表示手段

【図1】



【図2】



【図3】

〈漢記〉	〈読み〉	〈品詞情報〉	〈意味情報〉
アタッシュケース	あたっしゅけーす	名詞	【入れ物】【下げる物】
インター	いんたー	名詞	【道】【内外】
喜街道	うらかいどう	名詞	【道】
往来	おうらい	名詞	【道】【活動】
小田原	おだわら	名詞	【地名】
街道	かいどう	名詞	【道】
際	こ	(語)マ行も 陰	
高速道路	こうそくどうろ	名詞	【道】
小道	こみち	名詞	【道】
自動車道	じどうしゃどう	名詞	【道】
燈台	ちようちん	名詞	【照明具】【下げる物】
詰め込	つめこ	(語)マ行も 5 段	
は	は	助詞	
も	も	助詞	
山道	やまみち	名詞	【道】
を	を	助詞	

【図8】

1. えっさえっさえさほいさっさ お婆の かご屋だ はいさっさ
 2. えっさえっさえさほいさっさ お婆の かごやだ はいさっさ
 3. えっさえっさえさほいさっさ せいひん うりこみ はいさっさ
 4. えっさえっさえさほいさっさ 製品 売り込み はいさっさ

1. 日暮れの 山道 細い道 小田原燈台 ぶらさげて
 2. ひぐれの やまみち ほそいみち おだわらちようちん おらさげて
 3. 都立の 混んだ道 アタッシュケース おらさげて
 4. とかいの こんだみち

往来 (おうらい)
 街道 (かいどう)

を
 は
 ら

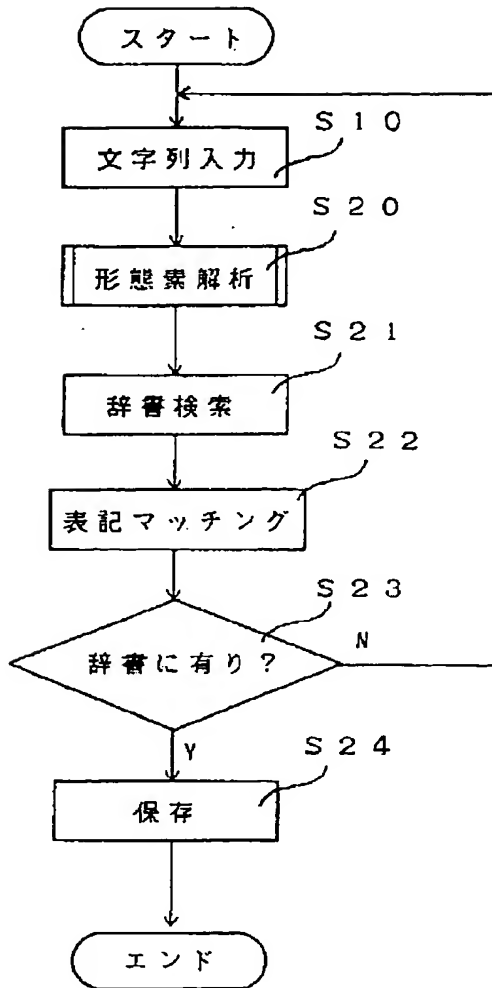
1. それ やっとこ どっこい はいさっさ はいはいはいはいさっさ
 2. それ やっとこ どっこい はいさっさ はいはいはいはいさっさ
 3. それ やっとこ どっこい はいさっさ はいはいはいはいさっさ
 4. それ やっとこ どっこい はいさっさ はいはいはいはいさっさ

1. 元巻巻記
 2. 元歌読み
 3. 増え歌巻記
 4. 増え歌読み

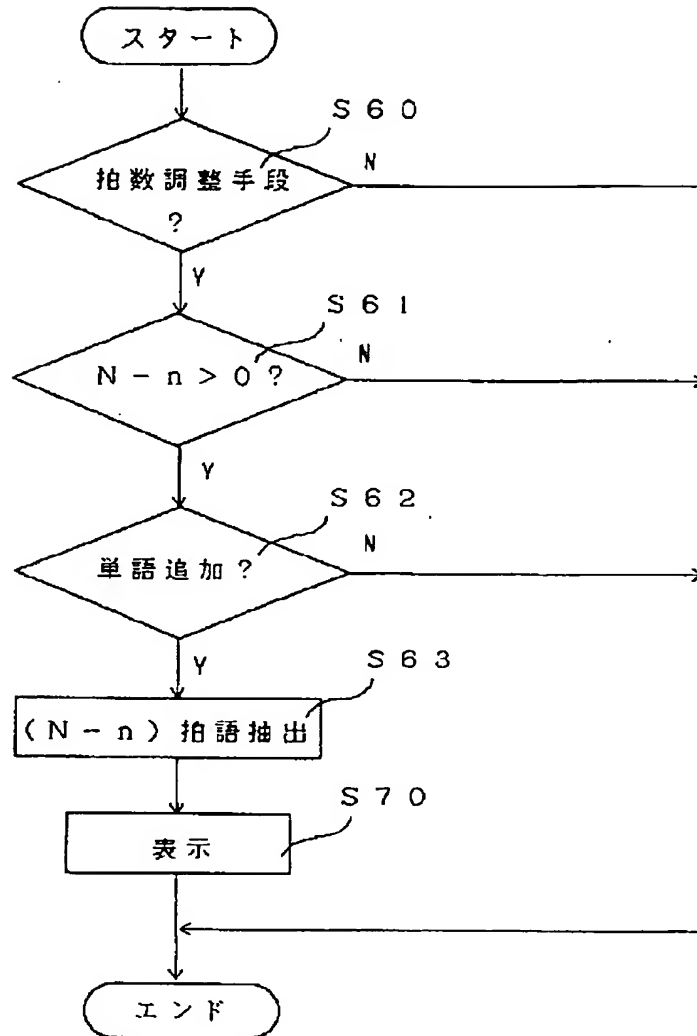


は候補文字列

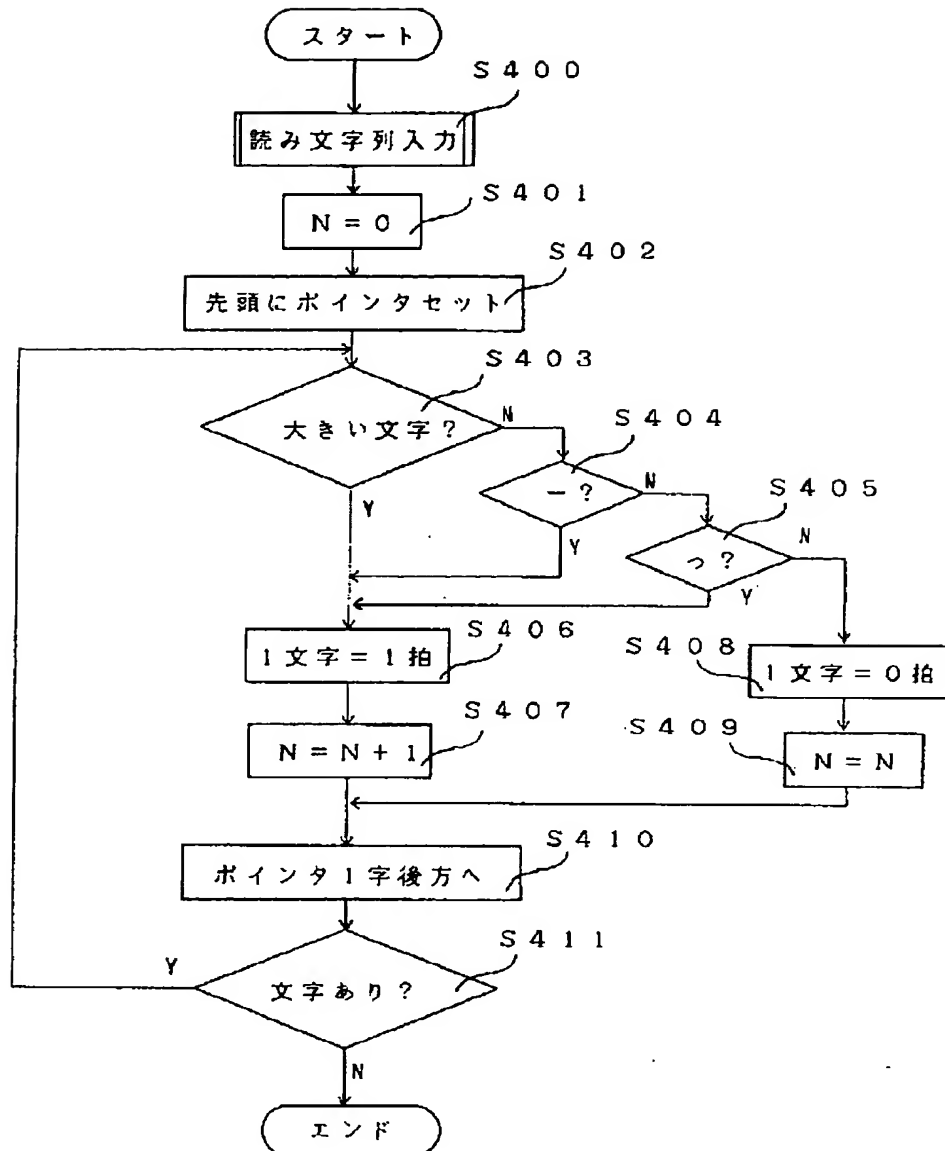
【図4】



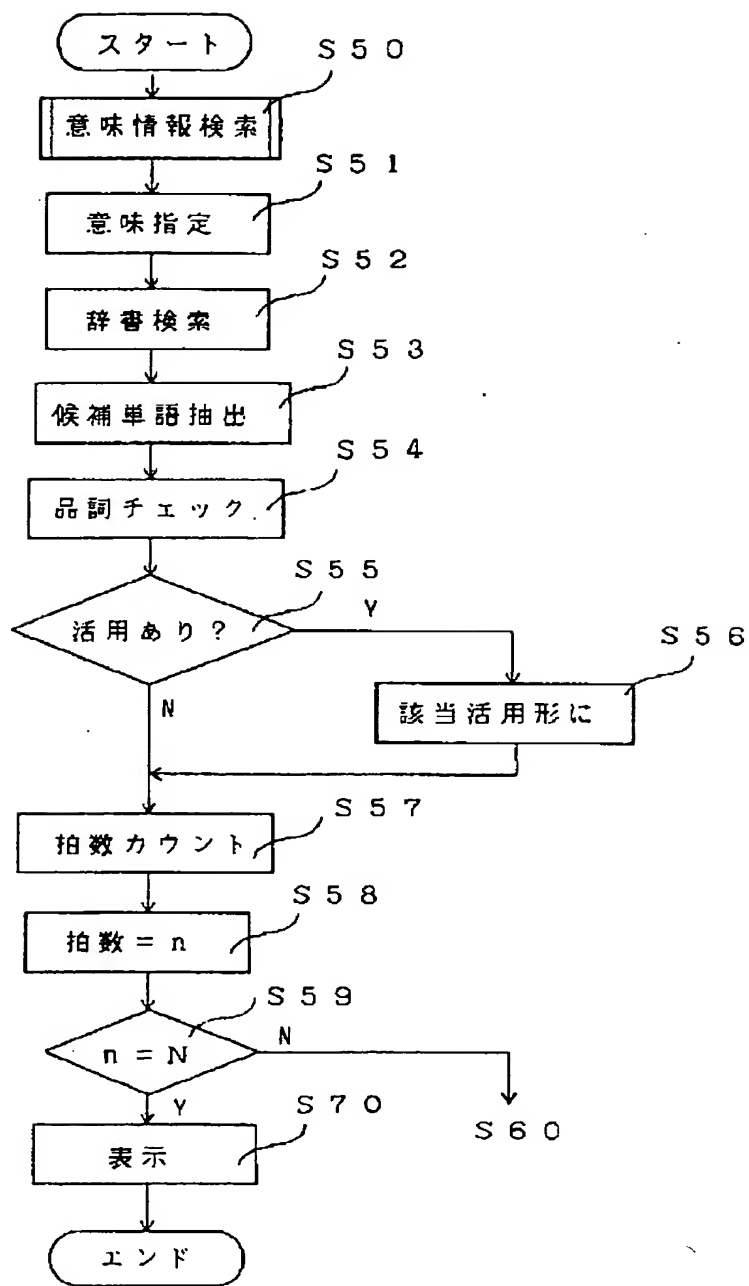
【図7】



【図5】



【図6】



(Mailing Date April 18, 2006)

DECISION OF REJECTION

Application Number	Pat Appln 2001-263355
5 Date of Draft	April 10, 2006
Patent Office Examiner	Zaita WADA 9459 5M00
Title of the Invention
Applicant	YAMAHA Corporation
Attorneys of Applicant	Hideo TAKINO

10

This patent application is rejected for the reason as stated in the notice of reasons of rejection dated February 2, 2004.

The argument and amendment have been examined, but no basis sufficient to overthrow the previously given reason(s) for refusal has been found.

15

Memorandum

<Reason 1>

It is well-known grammatical matter whether a prolonged sound is counted as 1 beat of 0 beat needless of citing any prior art publication (if necessary, see Fig. 5
20 of previously cited reference document 1 for the case of counting as 1 beat, and see paragraph 89 of JP-A HEI08-193837 for the case of counting as 0 beat).
There is found no particular difficulty in constructing to be adapted for both the cases.

25 <Note: Newly found reason of rejection - Patent Law Article 29, paragraph 1,

preamble>

(Regarding claim 2)

The content described in claim 2 of this application does not exceed the category of artificially decided rules (not utilizing the natural law) as rules of
5 composing words of a song, and hence does not constitute "invention" as prescribed in the Patent Law.

(Regarding claim 3)

Claim 3 only "declares" programizing rules for composing words of a song, and
10 does not disclose any concrete hardware resources required for enabling the said rules in a computer, and does not disclose how said hardware resources are cooperated.

Therefore, the content described in claim 3 does not constitute "invention" as prescribed in the Patent Law.

15

Note:

"Remarks" in Manual of Examination "Part II, Section 1, 1 Those which do not utilize natural law (4)"

Example 1 in Manual of Examination "Part VII, Section 1, 1.1.3 Examples in
20 which the invention is not clear (1)"

Examples 1 and 2 in Manual of Examination "Part VII, Section 2, 2.2.2 Concrete procedures for discrimination (4)"

....

拒絶査定

特許出願の番号	特願 2001-263355
起案日	平成18年 4月10日
特許庁審査官	和田 財太 9459 5M00
発明の名称	歌詞作成装置及び歌詞作成方法並びに歌詞作成プログラムを記録したコンピュータで読み取り可能な記録媒体
特許出願人	ヤマハ株式会社
代理人	龍野 秀雄

この出願については、平成16年 2月 2日付け拒絶理由通知書に記載した理由によって、拒絶をすべきものである。

なお、意見書及び手続補正書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる根拠が見いだせない。

備考

<理由1>

長音を1拍と数えたり0拍と数えたりすることは、先行技術文献を提示するまでもないような周知の文法事項（必要とあれば、1拍と数える場合については先記引用文献1の第5図を、0拍と数える場合については特開平08-193837号公報の第89段落を参照されたい。）である。そして、両者の場合に対応できるように構成することに、格別な技術的困難性はない。

<参考：新たに発見した拒絶理由－特許法第29条1項柱書>

（請求項2について）

本願の請求項2に記載されたものは、歌詞作成規則という（自然法則を利用しない）人為的取り決めの範疇を超えないので、特許法上の「発明」に該当しない。

（請求項3について）

特許請求の範囲第3項には、歌詞作成規則をプログラム化する旨「宣言」されているだけで、当該規則をコンピュータで実行可能にするために必要な具体的ハードウェア資源の開示も、当該ハードウェア資源を如何に協働させるのかについての開示もない。

したがって、本願の請求項3に記載されたものは、特許法上の「発明」に該当しない。

参考：

- ・審査基準「第II部第1章1. 1 自然法則を利用しないもの（4）」中の「留意事項」
- ・審査基準「第VII部第1章1. 1. 3 発明が明確でない例（1）」中の例1
- ・審査基準「第VII部第1章2. 2. 2 判断の具体的な手順（3）」中の例1乃至2

この査定に不服があるときは、この査定の謄本の送達があった日から30日以内（在外者にあつては、90日以内）に、特許庁長官に対して、審判を請求することができます（特許法第121条第1項）。

（行政事件訴訟法第46条第2項に基づく教示）

この査定に対しては、この査定についての審判請求に対する審決に対してのみ取消訴訟を提起することができます（特許法第178条第6項）。

部長／代理	審査長／代理	審査官	審査官補
_____	丹治 彰	和田 財太	_____

8 3 2 0

9 4 5 9

(Mailing Date February 10, 2004)

NOTICE OF REASONS OF REJECTION

5	Application Number	Pat Appln 2001-263355
	Date of Draft	February 2, 2004
	Patent Office Examiner	Yukiko CHO
		4233 5M00
	Attorneys of Applicant	Hideo TAKINO
10	Applied Article	Article 29, 2nd paragraph, Article 37

This application should be rejected by the following reasons. When the applicant has opinion thereto, please submit Argument within 60 days from the date of mailing.

15

REASONS

1. The inventions relating to the below-mentioned claims of this application could be easily made by those skilled in the art before the filing of this application, based on the invention described in the below mentioned publication(s) distributed in Japan or in a foreign country, or the invention(s) publicly available through electro-communication network, prior to the filing of this application. Therefore, this application cannot be granted a patent under the prescription of paragraph 2 of Article 29 of the Japanese Patent Law.

25

Remarks

(regarding the cited documents, etc., refer to the list of cited documents)

For Claims: 1-3, 6, 9

5 Memorandum:

Cited reference 1 describes an apparatus for producing words of song provided with structures for searching words used in words of a song by the meaning, and generating sequence of letters extracted by the required part of speech and number of beats as a candidate of words of a song.

10 Although reference 1 uses the meaning as direct search key for the dictionary, it is recognized to be easily thought of by those skilled in the art to use the part of speech and number of beats (sounds) which are the straining conditions as the search conditions.

15 2. This application does not comply with the requirements under Article 37 in the following points.

Remarks

The subject common to the inventions described in claims 1-3 (6, 9), and the
20 invention described in claims 4 (7, 10) is only aid for composing words of a song, and this subject has been solved prior to the filing of this application (for example, see cited reference 1), and is not an unsolved subject at the time of filing of this application, therefore the two inventions do not satisfy the relation described in Patent Law Article 37, paragraph 1, item 1.

25 Further, it cannot be recognized that the main parts of the items described in

the claims of the two inventions (means for solving the subject corresponding to the common subject to be solved) are the same. Therefore, the above-mentioned two inventions do not satisfy the relation described in Patent Law Article 37, paragraph 1, item 2.

- 5 Further, the above-mentioned two inventions do not satisfy any of the other relations described in Patent Law Article 37, paragraph 1, items 3, 4, and 5.

Since this application does not comply with the requirements under Article 37, the inventions described in this application except the claims 1-3, 6, 9, have not
10 been examined as to requirements concerned the novelty, inventive steps, etc.

When new reason(s) of rejection is(are) found, a notice of reason(s) of rejection will be issued.

15 List of Cited Documents, etc.

1. JP-A-HEI-06-149800 publication

Record of results of search of prior art documents

Searched field of art IPC 7th version G06F17/21-26

20 This record of results of search of prior art documents does not constitute a reason of rejection.

manager/subsidiary chief examiner/subsidiary examiner assistant examiner

Masashi INOUE

Yukiko CHO

8120

4233

25

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2 0 0 1 - 2 6 3 3 5 5
起案日	平成 1 6 年 2 月 2 日
特許庁審査官	長 由紀子 4 2 3 3 5 M 0 0
特許出願人代理人	瀧野 秀雄 様
適用条文	第 2 9 条第 2 項、第 3 7 条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から 6 0 日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第 2 9 条第 2 項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

請求項：1 - 3, 6, 9

備考：引用文献 1 には、歌詞に用いる言葉を意味で検索し、必要とする品詞と拍数によって抽出した文字列を歌詞の候補として生成する構成を備えた歌詞作成装置が記載されている。

引用文献 1 記載の発明においては、意味を直接の辞書の検索キーとして用いているが、絞り込み条件である品詞、拍数（音数）を検索条件として使用することは、当業者が容易に想起し得る事項と認められる。

2. この出願は、下記の点で特許法第 3 7 条に規定する要件を満たしていない。

記

請求項 1 - 3 (6, 9) に記載される発明と、請求項 4 (7, 1 0) 及び請求項 5 (8, 1 1) に記載される発明とに共通する課題は歌詞作成支援という点のみであるが、この課題は本願出願前に解決されており（例えば、引用文献 1 参照）本願出願時未解決の課題ではないから、両発明は特許法第 3 7 条第 1 項第 1 号の関係を満たさない。

また、上記両発明において請求項に記載する事項の主要部（解決すべき共通な課題に対応する解決手段）が同一であるとも認められないから、上記両発明は、特許法第 3 7 条第 1 項第 2 号の関係を満たさない。

さらに、上記両発明は、特許法第 3 7 条第 1 項第 3 号、第 4 号、第 5 号に規定する他のいずれの関係も満たさない。

この出願は特許法第 3 7 条の規定に違反しているので、請求項 1 - 3, 6, 9 以外の請求項に係る発明については新規性、進歩性等の要件についての審査を行っていない。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開平 0 6 - 1 4 9 8 0 0 号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C 第 7 版 G 0 6 F 1 7 / 2 1 - 2 6

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

部長／代理 審査長／代理 審査官 審査官補

	井上 正	長 由紀子
	8 1 2 0	4 2 3 3